

新政あいち県議団役員として知事への要望を提出。実現につなげています!

第1回知事要望(5月18日)

- ① ワクチン接種体制の加速
 - 三河始め他地域への大規模集団接種会場の開設、運営体制の整備。
 - 企業内を始め民間施設の活用。
- ② 医療提供体制の拡充
 - 愛知病院の人員の充実等、実働病床数の拡充。
 - 名古屋市内の病床ひっ迫時に、速やかに受入先が確保できるよう、名古屋市と県感染症調整本部との連携強化。
- ③ 低所得の子育て世帯に対する支援
 - 生活実態は厳しさを増しており、特別給付金の早急な支給及び更なる継続支援の国への働きかけ。

第2回知事要望(6月18日)

- ① ワクチンを接種しない方が不利益を受けた場合に備え、相談窓口の充実などサポート体制の整備。
- ② ワクチン接種会場を設置する事業者・教育機関に対し、ワクチン接種の有無により誹謗中傷を受けることがないように正確な情報発信と啓発の実施。



要望書提出時の様子



中日新聞6月19日記事より抜粋

日比たけまさ県政レポート 第41号

発行元:日比たけまさ事務所 春日井市中央台6-7-4 TEL:0568-70-0594 発行責任者:日比 たけまさ

新政あいち県議団政策調査会長として「声を形にする」県政の推進に努めます

本県では今年度に入り緊急事態措置、まん延防止等重点措置、県独自の措置が継続して実施される中、7月12日までに臨時議会が6回召集され、合計2,809億余円のコロナ対策等の補正予算が審議、可決されました。一方、6月17日から7月6日にかけて6月定例議会が開催され、670億余円の補正予算をはじめ27議案を可決成立させました。

また、役員改選により今年度の政策調査会長に選任されました。会派内の政策提言をまとめ実現につなげる役職であり、職責の重さを感じています。大きな犠牲を払いながら感染抑止にご協力頂いている皆様の声を真摯に受け止め、今、何をすべきかしっかりと考え行動したいと思います。



新政あいち県議団新役員

ひび挑戦! ~家族・子育て編~

今回は長女桜暖(かのん)の誕生について紹介します。

長男、康裕出産の際には「ハイリスク出産」と診断され、名古屋市の西部医療センターにお世話になったものの、大きなトラブルもなく出産できたことから、二人目は近くの産婦人科で診察をお願いし、出産予定の2週間前まで順調に進みました。

しかし、そこから胎児の体重が全く増えなくなる一方、羊水が減りだしたことから、出産日が決められ、当日、妻と産婦人科に行き、一通りの準備が終わったところで、仕事に向かいました。

お昼に差し掛かるころ、携帯を見ると着信履歴が…慌てて電話をかけると、妻から「緊急で帝王切開することになった」との報告。急いで病院に向かったものの、すでに手術が始まったことを知りました。まもなく誕生という期待と緊急事態への不安が入り混じった複雑な心境で待つこと1時間。お医者さんが現れました。

「元気な赤ちゃんです!」という第一声を期待した私に対し、状況の説明が始まります。えっ、あれっ、妻は? 赤ちゃんは??

母子の無事を聞くまでの数十秒間は私にとってとても長く感じました。一方、やはり低出生体重児であったことから救急車が到着次第、西部医療センターのNICU(新生児集中治療室)に搬送すると告げられました。ほどなく、妻と赤ちゃんとの対面と同時に救急車が到着。抱っこ写真だけ撮らせてもらい、私も西部医療センターへ。(長男同様、西部医療センターにお世話になることに…)

その後の2週間は、長男の保育園と妻の実家への送迎、妻と娘の病院間の往復、そして仕事と怒涛の時間を過ごす中、妻が無事退院、娘も順調にNICUからGCU(新生児回復室)に移り、退院することができました。長男誕生の時とはまた違った、貴重な経験となりました。



下記住所に事務所を構えておりますので、お気軽にお立ち寄りください。

住所 春日井市中央台6-7-4

電話 0568-70-0594

FAX 0568-70-0580

HP <http://www.hibi55.com/>
(リニューアルしました。是非ご覧ください!)

YouTube
始めました!
ひび挑戦で検索、
ご覧ください!



代表質問 河合 洋介 総務会長(東浦町及び阿久比町選出 3期)

新型コロナウイルス感染症の克服

《Q》 県主導の大規模集団接種会場におけるワクチン接種の医療従事者確保、またコロナ陽性患者のうち、無症状、軽症の方々への取組について伺う。

《知事》 現状の2会場に加え、新たな5か所の大規模集団接種会場においては、大学病院、JA愛知厚生連の県内8病院、民間の医療人材派遣会社等の協力を得て、接種体制の確保を長期的に取り組む。

無症状者及び軽症者は、原則、宿泊療養施設への入所を案内している。しかし、自宅療養を選択される方が多いことから、利用促進に向け、看護師が24時間常駐し体調急変時に迅速な対応が可能である事などの利点を丁寧に説明する。一方、自宅療養者に対しては、パルスオキシメーター(血中酸素濃度測定)の貸出しや配食サービスによる生活支援に加え、地域の医療機関や訪問看護ステーションと連携し、電話診療や往診、訪問看護などを提供できる体制を整備する。



宿泊療養施設の概要

行政手続のオンライン化とキャッシュレス化

《Q》 DX推進に向け、キャッシュレス化を含んだ行政手続のオンライン化への取組について伺う。

《知事》 2025年度までに県内のオンライン化可能な手続の100%実現を目指す。また書類の添付や対面での審査などが必要ない手続について、今年度中に全てオンライン化実現を目指し、全庁を挙げて重点的に取り組む。DXには、キャッシュレス決済への対応は不可欠であるので、必要となるシステムや導入する収納事務の検討を進める。



行政DXに関する勉強会を実施しました

LGBTQ等への理解、同性パートナーシップ制度導入に向け

《Q》 性的少数者に対する理解促進及び同性パートナーシップ制度導入に向けた取組について

《知事》 性的少数者の方々は、自らの性的指向や性自認に対する無理解や差別、社会生活上の制約など様々な問題に苦しんでいる。こうした差別や偏見をなくすべく、性的少数者への理解促進を重要課題と位置づけ、必要な施策を実施していく。同性パートナーシップ制度については、制度導入に様々な意見がある。パートナーシップ制度の先行事例を検証し、制度について研究していく。

一般質問

中小企業等へのテレワーク導入支援

嶋口忠弘議員(安城市選出2期)は、県下全域の中小企業等に対するテレワーク導入支援について質問し、労働局長から本年4月に開設した「あいちテレワークサポートセンター」における相談体制やセミナーについて、また知事からは、テレワークに慣れていない中小企業を対象に専門家派遣などのきめ細かい支援メニューを用意するとともに、テレワークを体験できるモデルオフィスを8月に開設し、導入と定着にしっかり取り組むとの答弁を得た。



あいちテレワークサポートセンター

その他の一般質問

西川 厚志 議員(名古屋市中川区選出5期)

コロナ禍による飲食業界への営業規制、名二環全線開通を踏まえた今後の展望と課題、名古屋(土古)競馬について

長江 正成 議員(瀬戸市選出4期)

コロナ禍における医療体制、がんについて

福田 喜夫 議員(日進市、東郷町選出2期)

防災対策、県営公園、交通安全対策について

安井 伸治 議員(名古屋市港区選出2期)

愛知県としての献血への協力体制、愛知県女性職員の活躍促進、愛知県発信の行政改革の提案について

議案質疑

5月11日開会の臨時議会にて新政あいち県議団を代表し質問をしました。

名古屋市内の飲食店等にて確認を行った結果、感染防止対策の取組が遅れていた項目は何か。また、見回り活動で得た感染防止対策に関する知見をどのように活かしていくのか伺う。

現在、名古屋市内の全ての飲食店等約18,000店舗を対象に見回り調査を実施しており、5月6日現在4,346店舗の調査を実施した。ほとんどの店舗において対策が取られていた一方、取組が遅れていた項目「アクリル板の設置又は座席の間隔の確保」や「手指消毒の徹底」についてはマニュアルを充実していく。今回の見回り調査において、例えば座席間隔は形態により間隔確保が異なることから、飲食店等事業者の皆様からの相談が多く寄せられている。新たな認証制度における基準を検討する際には、今回得た知見を積極的に取り入れ、皆様が分かりやすい認証制度となるよう取り組んでいく。

今回の大規模集団接種会場において、どの程度の規模の接種を行うことが可能なのか伺う。

名古屋空港ターミナルビルの会場では1日当たり最大2千人、藤田医科大学の会場では最大1千人へ接種を行うこととしている。今回予算計上した9月末までの130日間で19万5千人の県民の皆様が2回接種することが可能となり、県内の接種対象者、約640万人の約3%をカバーできるものと見込んでいる。

モデルナ製ワクチン使用の大規模集団接種における市町村との連携について伺う。

今回の大規模集団接種では複数の市町が参加することから、各市町における既存の接種体制に影響が及ばぬよう、円滑に接種を進めていく必要がある。接種の予約については、各市町の既存の予約システムをそのまま活用し、予約の重複など混乱が起きないようにする。さらに接種当日、各市町の職員が会場の受付において身分証などにより本人確認をしっかりと行うとともに、接種終了後には2回目接種の予約を受け付ける。県及び市町が連携して、安全かつ確実にワクチン接種を進めていく。



大規模会場 19万人接種
新型コロナウイルス感染症対策本部
愛知県庁 2021年5月11日



中日新聞5月12日
記事より抜粋



大規模集団接種会場の様子

委員会関係

5月27日開会の臨時議会にて議会運営委員会、県民環境委員会、愛知県競馬組合議会への選任、また6月定例会では新たに設置された新型コロナウイルス感染症対策特別委員会への選任が決まりました。

各委員会にて、インターネット上の人権侵害に対するモニタリング(県民文化局)、環境施策推進のための企業・若者との連携(環境局)、あいちカーボンニュートラル戦略会議(環境局)、64歳以下のワクチン接種に向けた課題(感染症対策局)、飲食店に対する第三者認証制度(防災安全局)について質問しました。その中から、環境施策推進のための企業・若者との連携について質疑の一部を紹介します。

ESG経営に関する県の支援及び環境への取組に関わりを持ちたいもののその術を持たずに悩んでいる中小企業に対する県の関わりについて伺う。

愛知県第5次環境基本計画の目指すべき姿の一つに、「環境と経済成長が好循環するあいち」を目標として掲げ、この実現に向けESG投資や環境取組を促す事業を実施している。一例として「SDGs AICHI EXPO 2020」において、「SDGsとESG投資」をテーマにセミナーを行い、ESGの理念普及に努めている。一方、環境取組を促すため「あいち環境塾」では、持続可能な社会づくりの知識や環境の視点で考え合意形成する力の習得に取り組んでいる。また、環境保全基金に企業が寄附することで貢献できる制度もあり、県はこの基金で様々な保全活動を実施するほか、企業と県が協定を締結し、海上の森自然環境保全地域で希少動植物の生息生育環境を改善するための樹木伐採を協働で実施している。

若い世代は環境分野への関心が高く、彼らの力が大切である。企業との連携を含め、県としての取組を伺う。

若い世代が企業と連携する取組として「かがやけあいちサステイナ研究所」と「生物多様性あいち学生プロジェクト」がある。「サステイナ研究所」は、研究員の大学生がパートナー企業から提示された環境課題に対し、企業の取組を学んだうえで解決策を提案する事業である。昨年度までの6年間で26大学220名の大学生が参加、パートナー企業30社にも参画いただいた。「学生プロジェクト」は、生物多様性保全に向け2019年度から企業等と連携して外来種駆除やビオトープ整備等に取り組んでおり、生物多様性保全に取り組む学生団体「GAIA(ガイア)」が立ち上がるなど連携の輪が広がっている。若い世代が企業と連携して実際の環境課題に向き合うことは、若い世代の力を大きく育てる上で大変重要と考えている。

企業との連携に向け、新たな取組をどのように考えているのか伺う。

企業の取組を促進するには、①企業等のSDGsに係る優良取組事例等を伝え、広める②他者の優良な取組を探し、調べられる③希望する企業、大学、NPO等をマッチングし、連携して取り組めるようにすることが必要で、基盤となるプラットフォームの構築に向け、企業・金融機関・大学・NPO・自治体等におけるSDGsの取組やESG投資に係る情報等のデータベース化を考えている。今年度は機能検討等、来年度にデータベースの構築・運用開始を行いたい。



議会運営委員会の様子



一日もりの学舎ようちえん(環境保全基金を財源に実施)

かがやけ★
あいちサステイナ研究所

学生 × 企業

愛知の未来を創る学生募集!

詳細は愛知サステイナ研究所のウェブサイトをご覧ください。

募集締切 7.12(月)

申込20名

抽選4チーム

1チーム5名

2021年度
パートナー企業(15社)

中部電力
トヨタ自動車
豊田グループ
トヨタグループ
トヨタグループ
トヨタグループ

中部電力
トヨタ自動車
豊田グループ
トヨタグループ
トヨタグループ
トヨタグループ

中部電力
トヨタ自動車
豊田グループ
トヨタグループ
トヨタグループ
トヨタグループ